

2020年12月期 第1四半期 決算補足説明資料

2020年5月12日

J トラスト株式会社

本資料のお取扱いに関して

- 本資料は、当社をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資の勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料は、正確性を期すために慎重に作成しておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の予測や情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。
- 当社は、2019年12月期に決算期を4月1日から翌3月31日までから1月1日から12月31日までに変更いたしました。これにより2019年12月期は、決算期変更の経過期間となり、9ヶ月間（2019年4月1日～2019年12月31日）を対象とした変則決算となっております。
- 本資料に記載された意見や予測等の情報は、本資料作成時点の当社の判断によるものであり、潜在的リスクや不確実性が含まれております。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績及び記載されている将来見通しとは乖離が生じることがありますのでご承知おきください。

【 本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先 】

J トラスト株式会社 財務部

TEL (03) 4330-9100

URL:<https://www.jt-corp.co.jp/>

1. 主要な経営指標の推移
2. 2020年12月期第1四半期 連結決算概要
 - 1) 連結業績（累計）の前期比較
 - 2) セグメント別営業収益及び営業利益（連結・累計）の前期比較
3. 2020年12月期連結決算進捗状況

尚、「データ集」につきましては、弊社ウェブサイトに記載しております。
併せてご覧いただきますようお願い申し上げます。

(IR情報_IR資料室_決算資料_財務データ)

https://www.jt-corp.co.jp/ir/library/ir_data_00/

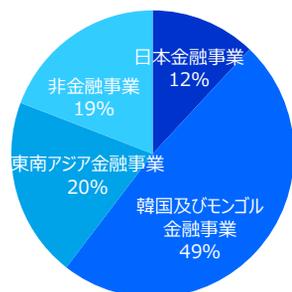
1. 主要な経営指標の推移

(単位：百万円)

	2020年3月31日 現在
時価総額(百万円)	25,980
発行済み株式数 (株)	115,469,910
株価(円)	225

	2018年3月期 ※1	2019年3月期 ※2	2019年 12月期※3	2020年12月期 1Q
営業収益	74,321	74,935	58,105	19,500
営業費用	47,451	78,253	35,706	10,403
営業総利益	26,870	-3,318	22,398	9,097
販売費及び一般管理費	24,128	28,488	27,370	7,663
その他の収益	2,239	366	5,624	152
その他の費用	222	1,159	365	31
営業利益	4,759	-32,600	287	1,555
金融収益	47	1,612	121	107
金融費用	1,895	110	712	249
持分法による投資利益	-12	-36	-9	-3
税引前利益	2,898	-31,135	-312	1,410
親会社の所有者に帰属する 当期利益	-731	-36,107	-3,249	1,541
営業収益営業利益率	6.40%	-43.50%	0.50%	7.98%
ROA(総資産利益率)※4	-0.11%	-5.45%	-0.62%	0.86%
ROE(自己資本利益率)※5	-0.50%	-29.06%	-4.24%	6.36%

営業収益構成 2020年12月期第1Q (累計)



※1 税引前利益までの数値について、非継続事業（アドアーズ、ハイライツ・エンタテインメント）を除く数値で表示しております。
 ※2 税引前利益までの数値について、非継続事業（ハイライツ・エンタテインメント）を除く数値で表示しております。
 ※3 オルファスの株式交換に係る暫定的な会計処理の確定による遡及修正は考慮していません。
 ※4 ROA(年換算) = 親会社の所有者に帰属する当期利益 ÷ 資産合計 (%) ※資産合計(前期末 + 当期末) / 2
 ※5 ROE(年換算) = 親会社の所有者に帰属する当期利益 ÷ 親会社の所有者帰属持分 (%) ※親会社の所有者帰属持分(前期末 + 当期末) / 2

2020年12月期第1四半期(1~3月)

当社グループの主な取り組みについて（一部、提出時点での取り組みを含む）

(i) 日本での事業展開

(日本保証)

・リバースモーゲージ型ローンの保証業務を開始

2020年1月、川崎信用金庫とリバースモーゲージ型ローンの保証提携契約を締結、保証取扱開始
 ⇒高齢者のお客様が抱える老後の多様な資金需要に対応

・クラウドファンディングを通じた保証残高の増加

日本保証の債務保証を組み込んだファンドを業務提携先であるSAMURAI&J PARTNERS株式会社グループのクラウドファンディングサイト「SAMURAI FUND」にて共同で組成

(Jトラストカード)

・在留外国人向けクレジットカード「Jトラストグローバルカード」の発行

主に情報サービス事業、収納サービス事業を行う㈱電算システムとの間で、業務提携契約を締結し、
 2020年2月、在留外国人を対象とするマスターカードブランドのショッピング専用クレジットカード「Jトラストグローバルカード」を発行
 ⇒デポジット（保証金）を入金することにより口座がなくてもクレジットカードの申込ができ、多くの在留外国人の方が
 キャッシュレスサービスの利便性を享受できる

(ii) 海外での事業展開

(Jトラストアジア、Jトラスト銀行インドネシア)

・グループ全体の効率的な資金活用

2020年3月、Jトラストアジアがクラウドファンディングサイト「SAMURAI FUND」により資金調達
 ⇒Jトラスト銀行インドネシアが、Jトラストアジアから劣後ローンを調達、同行の資本増強を図る

1) 連結業績（累計）の前期比較

※当社は2019年12月期より決算期(事業年度の末日)を3月31日から12月31日に変更しております。この変更に伴い、当期は比較対象となる前期と対象期間が異なるため、対前年同期比につきましては記載しておりません。さらに、前期に行われた企業結合に係る暫定的な会計処理を、当期に確定させたため、前期の関連する数値を遡及修正しています。

(単位:百万円)

	2019年12月期1Q (累計)		2020年12月期1Q (累計)		主な増減要因
	実績	百分比 (%)	実績	百分比 (%)	
営業収益	18,279	100.0	19,500	100.0	増 <ul style="list-style-type: none"> ・Jトラストロイヤル銀行の連結子会社化により営業収益が増加 ・キーノートの商業施設建築部門において、ホール、飲食店工事等の受注が増加したことにより工事契約収益が増加
					減 <ul style="list-style-type: none"> ・TAAにおける前期末の大規模な買取債権の売却により、簿価修正益が減少
営業費用	12,354	67.6	10,403	53.3	増 <ul style="list-style-type: none"> ・Jトラストロイヤル銀行の連結子会社化により営業費用が増加 ・キーノートの商業施設建築部門において、役員原価が増加
					減 <ul style="list-style-type: none"> ・インドネシアの金融事業において、予想信用損失を見直し貸倒引当金の再計算を行ったこと等により貸倒引当金繰入額が減少
販売費及び一般管理費	7,259	39.7	7,663	39.3	増 <ul style="list-style-type: none"> ・Jトラストロイヤル銀行の連結子会社化により販売費及び一般管理費が増加
その他の収益・費用	1,767	9.7	121	0.6	
営業利益	433	2.4	1,555	8.0	
金融収益・費用	-322	-1.8	-142	-0.7	
持分法による投資利益・投資損失	-6	-0.0	-3	-0.0	
税引前利益	104	0.6	1,410	7.2	
法人所得税費用他	561	3.1	-107	-0.6	減 <ul style="list-style-type: none"> ・期末時点の見積実効税率に基づき、簡便的な方法で税金費用を計算
継続事業からの当期(四半期)利益	-456	-2.5	1,518	7.8	
非継続事業からの当期(四半期)利益	—	—	—	—	
非支配持分	-284	-1.6	-23	-0.1	
親会社の所有者に帰属する当期(四半期)利益	-172	-0.9	1,541	7.9	

2) セグメント別営業収益及び営業利益（連結・累計） の前期比較

※当社は2019年12月期より決算期(事業年度の末日)を3月31日から12月31日に変更しております。この変更に伴い、当期は比較対象となる前期と対象期間が異なるため、対前年同期比につきましては記載しておりません。さらに、前期に行われた企業結合に係る暫定的な会計処理を、当期に確定させたため、前期の関連する数値を遡及修正しています。

(単位:百万円)

		2019年12月期 1Q (累計)	2020年12月期 1Q (累計)	主な増減要因
日本 金融事業	営業収益	2,345	2,366	
	営業利益	1,078	1,151	
韓国及び モンゴル 金融事業	営業収益	9,777	9,501	・TAAにおける前期末の大規模な買取債権の売却により、 <u>簿価修正益が減少</u>
	営業利益	2,548	2,188	・前期、貯蓄銀行において、債権回収実績率の見直しに伴い <u>貸倒引当金繰入額が減少</u> したことに比べ、当期増加
東南アジア 金融事業	営業収益	2,726	4,102	・ <u>Jトラストロイヤル銀行の連結子会社化</u> により営業収益が増加
	営業利益	-1,889	-1,204	・インドネシアの金融事業において、予想信用損失を見直し貸倒引当金の再計算を行ったことにより <u>貸倒引当金繰入額が減少</u>
総合エンターテイン メント事業	営業収益	1,712	1,683	・営業収益は、 <u>ワイゼンラージの連結子会社化</u> により増加するも、 <u>新型コロナウイルス感染症の影響</u> による下押し圧力等により横ばい、営業利益は固定費負担が重く減少
	営業利益	-9	-162	
不動産事業	営業収益	1,334	1,026	・営業収益は、 <u>一戸建て分譲住宅について</u> 、営業エリアの見直しや、事業リソースの集約を行っている過程で販売が <u>低調に推移</u> したことにより減少したものの、営業利益は <u>経費削減等</u> により増加
	営業利益	-21	40	
投資事業	営業収益	272	281	
	営業利益	-510	-473	
その他の 事業	営業収益	237	687	・営業収益はキーノートの <u>商業施設建築部門において</u> 、ホール、飲食店工事等の <u>受注が増加</u> したことにより増加
	営業利益	-155	-173	
連結	営業収益	18,279	19,500	
	営業利益	433	1,555	

3. 2020年12月期 連結決算進捗状況

セグメント別業績予想に対する進捗

(単位:百万円)

2020年12月期 1Q	期初業績 予想	実績	進捗率 (%)	今後の戦略等
営業収益	86,511	19,500	22.5	
日本金融事業	8,330	2,366	28.4	・好調な保証事業、債権回収事業に注力
韓国及びモンゴル金融事業	38,876	9,501	24.4	・安定して推移している銀行業における貸出金残高からの利息収益の増加及び債権市場の高騰を背景とする定期的な債権売却益の計上
東南アジア金融事業	21,671	4,102	18.9	・Jトラストロイヤル銀行におけるリテール戦略への展開に伴う営業収益の増加 ・Jトラスト銀行インドネシアの銀行業における貸出金の増加に伴う利息収益の増加及び外国為替取引等のフロー収入の強化 ・Jトラストインベストメントインドネシアにおける法的回収を含む回収金の最大化
総合エンターテインメント事業	9,222	1,683	18.3	・新型コロナウイルス感染症の影響に注視しつつ、新たに開始した各事業における事業基盤の強化に加え、機動的な事業再編や経営資源の最適配分による収益拡大を目指す
不動産事業	5,230	1,026	19.6	・キーノートにおいて、営業エリアの見直しや事業リソースの集約を行っており、今後、収益不動産の開発や不動産クラウドファンディング事業への参入等検討
投資事業	990	281	28.5	・予算通り推移
その他の事業	2,536	687	27.1	・キーノートにおいて、商業施設建築部門における新規設計・施工案件の開拓に注力
営業利益	1,681	1,555	92.5	
日本金融事業	2,930	1,151	39.3	・安定した営業収益の増加
韓国及びモンゴル金融事業	5,835	2,188	37.5	・安定した営業収益の増加 ・審査基準の厳格化、良質な債権獲得及び不良債権の抑制等により貸倒引当金繰入額の減少を図る
東南アジア金融事業	-3,423	-1,204	—	・営業収益の増加に加え、貸倒引当金繰入額の減少や、訴訟関係費用の減少等による増加
総合エンターテインメント事業	720	-162	—	・営業収益の増加に加え、新規連結事業のシナジー効果等を発揮し、売上原価の減少、経費削減等による収益体制の向上を目指す
不動産事業	298	40	13.6	・キーノートにおいて、取り組み中の各種施策による収益拡大
投資事業	-1,853	-473	—	・訴訟関係費用の抑制
その他の事業	-154	-173	—	・営業収益の増加